

「千葉県農林水産業振興計画（案）」の概要について

計画策定の基本的な考え方

1. 計画策定の趣旨

本県は、温暖な気候と首都圏に位置する恵まれた立地条件や農林漁業者の高い技術に支えられた全国屈指の農林水産県ですが、近年、台風等の自然災害や高病原性鳥インフルエンザなどにより、農林水産業は甚大な被害を受けました。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大による県民のライフスタイルの変化や、多様化する消費者ニーズへの対応、さらには、脱炭素社会の実現に向け環境に配慮した持続可能な農林水産業の振興が求められています。

これらの状況を踏まえ、農林漁業者の所得向上と農山漁村の活性化に向け、新たな農林水産業振興計画を策定します。

2. 計画の性格

本計画は、千葉県総合計画を上位計画とし、本県農林水産業における 10 年後の目指す姿を示すとともに、その実現に向けた具体的な取組を定めます。

3. 計画期間

令和4年度から令和7年度（4年間）

本県農林水産業をめぐる情勢

- 人口減少と高齢化の進行
- 経済のグローバル化の進展
- デジタル社会の進展
- 頻発する自然災害や家畜伝染病
- 新型コロナウイルス感染症の拡大による社会経済活動の変化
- 国内外におけるSDGsや環境への関心の高まり

基本方針

1. 目指す姿

千葉県総合計画では、おおむね 10 年後の目指す姿『**農林水産業が魅力ある力強い産業に育っている千葉**』を掲げています。本計画では、この目指す姿の実現に向け、数値目標を定めて各種施策を展開し、農林漁業者の所得向上を図ります。

2. 基本目標

力強く、未来につなぐ 千葉の農林水産業

【数値目標】

目標項目	現状値	令和7年	令和12年
農業産出額	3,852 億円 (令和2年)	4,500 億円	5,000 億円
県内漁港水揚金額	476 億円 (令和元年)	580 億円	600 億円
農業・漁業生産関連事業の年間販売金額	750 億円 (令和元年度)	830 億円	1,000 億円

基本施策（主な取組）

1. 次世代を担う人材の育成・確保

- ◆ 農業所得の向上・雇用創出に向けて、販売額 3,000 万円以上の経営体を育成
- ◆ 地域農業を支える集落営農組織や小規模農家の営農継続を支援
- ◆ 農業内外からの新規就農者の確保・定着や企業による農業参入を促進
- ◆ 高性能林業機械の活用など林業事業体の経営基盤を強化
- ◆ 地域漁業の実情に応じた「就業モデル」の構築による新たな担い手の確保・定着

2. 農林水産業の成長力の強化

- ◆ 作業の省力化や生産性の向上につながるスマート農林水産業を加速化
- ◆ 生産性を高める農地の大区画化や野菜など高収益作物の栽培に向けた水田の汎用化を推進
- ◆ 農地の集約化に向けて人・農地プランの話し合いを推進
- ◆ 新技術の活用や基盤整備により水産資源の持続的な利用と水産業の成長産業化を両立
- ◆ ちばエコ農業や有機農業など環境負荷軽減の取組や耕畜連携による資源循環型農業を推進
- ◆ 森林環境譲与税を活用した都市部と森林地域の市町村の連携による森林整備の取組を支援
- ◆ 革新的な生産技術及び品種開発、環境への調和や資源の維持増大に関する試験研究を推進

3. 市場動向を捉えた販売力の強化

- ◆ 加工・業務用需要の拡大など市場動向を捉えた産地の流通販売体制の整備を推進
- ◆ 地産地消、グリーン・ブルーツーリズムの推進、地域資源を活用した商品開発を支援
- ◆ 県オリジナル品種や新たな「食」の提案等により県産農林水産物のブランド力を強化
- ◆ 千葉の強みを生かした輸出重点品目を中心とした海外展開、新生成田市場を活用した輸出促進

4. 地域の特色を生かした農山漁村の活性化

- ◆ 交流人口の拡大により農山漁村の将来を担う多様な人材の定着を促進
- ◆ 農山漁村がもつ多面的機能を維持・発揮するための地域住民等による活動を支援
- ◆ 房総半島の豊かな海と漁業・漁村が有する歴史と文化を活用した海辺の活性化

5. 災害等への危機管理の強化

- ◆ 収入保険等の加入促進や農業用施設の補強対策等により農業経営へのリスクを軽減
- ◆ 飼養衛生管理基準の徹底及び監視体制の強化により家畜防疫体制を強化
- ◆ 排水施設や漁港施設等の防災・減災対策とため池の人的被害の防止に向けたハザードマップ作成と防災工事
- ◆ インフラ施設周辺の倒木被害の未然防止につながる森林整備を支援

部門別戦略

目標の達成に向け、4年間の計画期間内に効果的かつ集中的に展開する施策を、園芸、農産、畜産、森林・林業、水産の5部門において「戦略」として打ち出し、着実な推進を図ります。